

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（講義形式）

学校名	福井市灯明寺中学校
報告者	山田 恭平

I 実施状況

1. 実施期日・参加者（学年・人数）等

日時 令和4年12月21日（水） 15:15～16:15
参加者 福井市灯明寺中学校 職員45名
指導・助言者 学校防災アドバイザー 松井峰晴
福井高専教授 岡本拓男

2. 実施の目的、内容

「福井地震後の水害について」

戦後の福井地震では九頭竜川が決壊し、大きな水害を招いた。その際、被害にあった方の体験をもとに作成された動画を視聴した。

「雪に関するレクチャー（地震との複合災害可能性を含めて）」

過去の福井県での例（荒島岳の地震）での被害をもとに、大雪の際に地震が起きたときの対応について話を聞いた。

II 成果と課題

1. 成果

(1) 九頭竜川が決壊

本校は九頭竜川中流部付近にあり、地震が起きた際には水害の危険が予想される。九頭竜川が決壊した当時の写真などを見ると、いつ起きてもおかしくない状況であることが分かった。本校では、垂直避難訓練を実施したことがないため、来年度以降に実施したい。実際に水害にあった方の話をもとに作成された動画では、水害によって家族を失った悲しさや水害の恐ろしさを物語っており、職員の心に訴えるようなものであった。



松井氏の講義

(2) 大雪と地震の複合災害

県内で起きた過去の地震をもとに、大雪の際地震が起きたとき、どのように対応すればよいか考える機会になった。荒島岳の地震では、前日の晴れで、大野市では雪下ろしをした後であったため被害は少なかったという。しかし、道路などが閉ざされたために無事であることを確認することができなかった。当時は震度情報もなく、被害状況が推定できなかった。



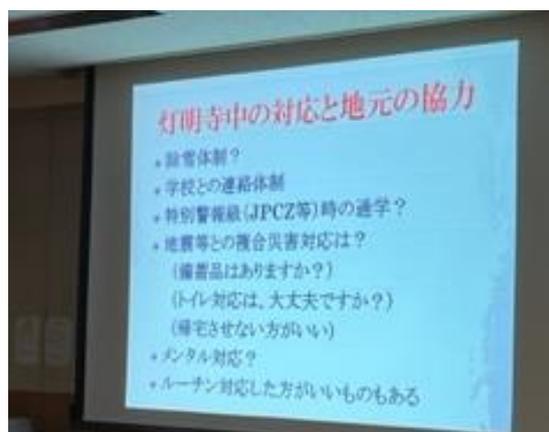
岡本氏の講義

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

2. 課題

大雪と地震の複合災害が起きた際に本校で想定される問題に対して準備しておくことが大切である。保護者への引き渡しの方法や、下校の判断など、学校として状況に合わせて対応していくことが必要である。学校付近には防災倉庫が設置されているが、雪の際には誰が倉庫まで雪かきをするのかなど、倉庫へのアクセス方法についても考えておく必要がある。

近年、取り上げられている「南海トラフ地震」は冬起こると予想されている。過去の大雪の被害から、南海トラフ地震が起こると3週間物流が止まることが想定され、特にガソリンなど燃料の確保が困難になる。対応策を考えておく必要があるが、現状では具体的な対応策が無いため、状況に合わせて判断・対応しなければならないことが分かった。



学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	福井市藤島中学校
報告者	淵本哲史

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

日 時 令和4年 11月15日(火) 14:30～15:20

想定時間 洪水発生 14:32

参加者 福井市藤島中学校 全校生徒334名 教職員28名 計362名

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

目的 内容 添付文章①を参照

II 訓練の成果と課題

1. 成果

藤島中学校では、はじめての垂直避難訓練であったため、事前に学校防災アドバイザーの松井峰晴さんからご助言をいただき、避難計画の策定を行った。事前に職員会議や全校放送などで生徒・教職員とともに避難方法の周知徹底を行ったため、混乱することなく避難することができた。

また、避難訓練の後半は学校防災アドバイザーから、洪水災害に対するレクチャーをしていただいた。生徒は改めて九頭竜川などの大河のそばで生活していることに気づき、素早く非難することの大切さを理解していた。



【垂直避難中】



【避難後の様子】



【洪水災害の講義】

2. 課題

(1) 避難時の経路

垂直避難中に生徒が階段に殺到し、廊下などで待機する時間が生じてしまった。学校防災アドバイザーの方からいただいたアドバイスである、階段を登るときは、後から来た人が外回りで登ることの周知徹底を行っていききたい。

(2) 点呼方法

本避難訓練は、教職員の出張が重なり大変人数が少ない中での実施となった。そこで、普段点呼を行わない教職員が行ったため、人員確認シートを正しく使うことができなかった。そのため後日、職員会議で周知を行った。

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（講義形式）

学校名	福井市美山中学校
報告者	木本 茂

I 実施状況

1. 実施期日・参加者（学年・人数）等

実施日時 令和4年10月24日（月） 14:00～16:00

参加者 校長、教頭、防災安全担当教諭 計3名

指導者 防災アドバイザー 松井 峰晴 氏

2. 実施の目的、内容

- ・危機管理マニュアルの確認と助言
- ・避難訓練についての助言



避難訓練の様子

II 成果と課題

1. 成果

危機管理マニュアルについての助言

- ・何のマニュアルが記載されているのかが分かる「事例一覧」があるので、確認しやすい。
- ・それぞれのマニュアルにおいて、フローチャート図でわかりやすく、さらに、重要なところを色分けしている。
- ・生徒という表記だけでなく、児童生徒となっており、地域の小学校の避難も考えたマニュアルとなっている。
- ・災害時の引き渡しの記載で、引き渡す生徒は、「当該保護者の子どもに限るものとし、家族と連絡が取れない場合は学校で待機させる」となっている。家族以外の人に連れて帰ってもらってはいけないということ。

2. 課題

防災意識や校舎内の安全配慮について

- ・各教室横の廊下にキャスター付きのロッカーがある。キャスター付きは移動が容易な面もあるが、災害時に元の場所から移動し、避難経路を防ぐこともある。固定がしっかりしてあるか、日々の安全点検で確認することが大切である。
- ・自助・共助・公助とあるが、中学生には、自分の身は自分が守るという「自助」はもちろん、避難者の手助けをしたり、避難所運営に協力したりするなどの「共助」の意識も持ってほしい。

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（講義形式）

学校名	あわらし市芦原中学校
報告者	矢尾克彦

I 実施状況

1. 実施期日・参加者（学年・人数）等

①防災マニュアルの見直し

日時：令和4年9月7日（水）から9月12日（月）

対象：学校安全担当2名

②自然災害教室

日時：令和4年11月16日（水）14:15～15:05

対象：第1学年75名

2. 実施の目的、内容

目的

- ・自然災害（台風接近による大雨）時の避難について、知識を身につける。
- ・自然災害についての知識を深める。

内容

- ・講話「中学生は助けられる人から助ける人へ！」
- ・災害時の行動計画表作成（グループワーク）
「大型台風が接近してきたら どうすればいいのだろう？」
- ・スライドショー
「ねえちゃんはそのとき、おかあちゃんだった」
（福井地震で被災した前田益枝さんの体験談）

II 成果と課題

1. 成果

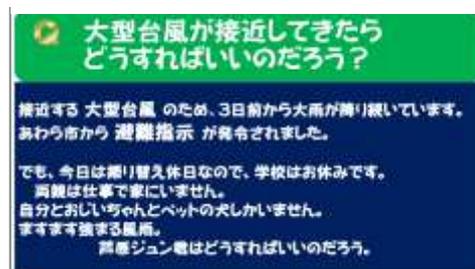
①災害知識の獲得

生徒達は、自然災害によってたくさんの命が奪われていることに衝撃を受けていた。また、非常持ち出し袋の重要性や、ハザードマップや避難所の場所、避難警戒レベルなど、自然災害に関する知識を習得することができた。

②災害意識の向上

講話や、右のワークシートを用いたグループワークを通して、普段から避難場所や避難経路を家族と確認しておく等、災

災害時の行動計画表テーマ・シート



害に対する備えの重要性、いつどんなときに被災するか分からないこと、家族がいない場合は自分で判断して避難することの大切さを実感していた。

また、避難の際に人と協力することを大切に、近所の人に呼び掛けるなど、助けられる人から助ける人になりたいという感想がたくさん見受けられた。

福井地震での体験談はとても効果的で、災害を他人事ではなく、実際に家族が犠牲になることもあるということをととても身近に感じているようだった。



2. 課題

①生徒の実態の把握

自然災害教室後には、「大雨以外のさまざまな災害の時にどんな行動をすればよいか。」「防災バッグにはどのような物を入れたらよいか。」「走って避難場に移動するのか歩いて移動するのか。」「避難所でどう過ごすか。」「避難所にペットを連れて行ってよいか。」などの感想が見られた。防災意識が向上した分、もっと災害について知りたい、もっと知らなければならぬと意識が変容していった。今回は防災アドバイザーと協議し、内容を決定して実施したが、災害に関するアンケートを実施した上で、内容を決定すると、よりよい教室になるのではないかと感じている。



②家庭との連携

非常持ち出し袋や、避難場所、非常時の連絡方法などについては、保護者との連携がとても大切である。保護者対象の講習会や、保護者と生徒と一緒に考える自然災害教室も効果的ではないかと考えている。学校防災アドバイザーの活用法を広く柔軟に考えていきたい。



学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	あわらし金津中学校
報告者	竹越 桃香

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

- (1) 日時 令和4年11月17日（木）13:15～15:15
- (2) 想定時間 市からの避難指示 13:15
- (3) 参加者 あわらし金津中学校 全校生徒 390名 教職員 36名、計 426名
- (4) 指導・助言者 学校防災アドバイザー(防災士 松井 峰晴氏)

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

- (1) 目的 添付文書参照（令和4年度 防災訓練実施計画(水害への対応)）
- (2) 内容 添付文書参照（令和4年度 防災訓練実施計画(水害への対応)）

II 訓練、講義の成果と課題

1. 成果

(1) 垂直避難訓練

本校では、今回初めての垂直避難訓練を行った。地震・火災の避難と異なり避難場所は自教室を設定した。担任からあらかじめ垂直避難の方法について事前指導していたため、スムーズに避難することができた。



【生徒が速やかに自教室に避難する様子】



【各学年主任が教頭に人数を伝えている様子】

(2) 学校防災アドバイザーによる講義

アドバイザーから、今年8月南越前町で起きたバックウォーター現象について講義を受けたあと、金津中学校区内でもバックウォーターが起きるおそれのある地域について、具体的な話を聞いた。そのため生徒は、より身近に災害を考えることができ、講義中にメモを取りながら熱心に聞いている生徒もいた。生徒の感想を3つ紹介する。「福井県で本当にあった映像や話を聞いて、改めて水害は自分の周りでも起こることを実感した。」「今までは守られる立場だったが、これからは守る立場になるので4歳の弟を守り、両親を支えたい。」「自分は“まだ”中学生ではなく、“もう”中学生なので、自分の命と他の人の命を守りたい。」中学生としてどう行動すべきか考えるきっかけになったことが分かる。



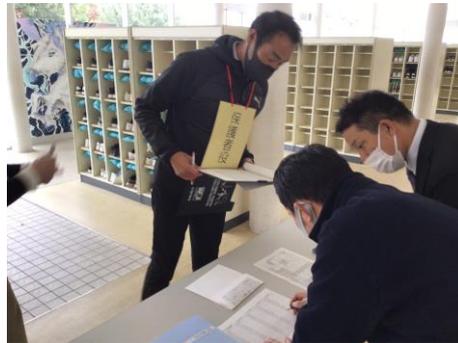
【講話の様子】



【生徒が質問に答えている様子】

(3) 引き渡し訓練

垂直避難訓練と同様、引き渡し訓練も本校では初めての試みであった。今回は垂直避難をしてからの引き渡しを想定し、生徒は教室で待機していた。遠隔での連携の必要性から、トランシーバーを使って連絡を取り合うなど、その場で気づいた教員が臨機応変に対応することができた。



【保護者役の教員が生徒を迎えに来て、学年主任と副主任が対応している様子】

2. 課題

(1) 垂直避難訓練

放送を聞かずに声を発しながら移動している生徒が多数みられた。放送が入ったら、どこにいても立ち止まって静かに聞く習慣の必要性を感じられたため、後日担任から改めて放送が流れたときの態度について注意した。

また、今回の垂直避難訓練では、2階の図書室を本部としたが、全館放送の機能は1階にしかないので、拡声器などの連絡・周知手段をあらかじめ本部の移動候補先に常備しておく必要があった。

(2) 引き渡し訓練

教室で待機している担任と生徒は引き渡し訓練の様子をみることができなかつたため、ZOOMなどで教室に配信すると、生徒はよりイメージしやすかつたと思われる。受付は【教室への連絡担当】と【保護者のサイン・名簿の確認】で最低2人は必要だった。実際の引き渡し時には生徒玄関前がかなり混雑することが予想される。該当の生徒が生徒玄関前に到着するまで保護者が待つ場所の確保など、実際の人の流れを詳細にシミュレーションしておく必要があった。

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	越前市南越中学校
報告者	教諭 尾崎 慎太郎

I 避難訓練の実施状況

1 実施期日・想定時間・参加者等

令和4年11月4日（金） 13:20～（昼休み中） 地震→火災

全生徒・全教職員

防災アドバイザー2名

2 訓練の目的、内容

添付資料参照

II 訓練の成果と課題

1 成果

【生徒】

- ・ここ数年行っていなかった休み時間の避難訓練だった。各自様々な場所にいたが、放送や近くの教員の指示を聞いて冷静に行動することができた。
- ・確認するときの合言葉【おたいこ】を意識して、廊下でかたまったり、ものが落ちてこない場所に対応することができた。また、地震発生時に想定させる危険として、落下物（ガラス・蛍光灯）、棚の倒壊、火災・ガス漏れ、パニック（慌て、驚きによる個人行動の危険性）があることを学ぶことができた。

「おたいこ」

おちてこない、たおれてこない、いどうしてこない場所

- ・避難するときの合言葉【おかしもて】を守って、速やかに行動することができた。

「お・か・し・も・て」

おさない、かけない、しゃべらない、もどらない、ていがくねん優先

- ・防災アドバイザーから東日本大震災や、韓国の事故、本年度の南越前町の集中豪雨の話聞いた。災害が起こったときに自助、共助、公助が大切であることを学んだ。その際中学生である自分たちができることや、逆にできると思ったことが危険である可能性があるということを知ることができた。
- ・東京消防庁のHPの動画を視聴し、事前学習をすることができた。

【教職員】

- ・訓練開始時にいた場所での教職員の行動マニュアルに従って、臨機応変に行動することができた。

①職員室

放送器具、出欠黒板・名簿、救急セットをその場にいた職員で持ち運び、体育館で誰に渡すかを確認することができた。

②体育館・体育教官室付近

担当が来るまでの整列指導や、AEDセットを養護教諭に渡すことができた。

③1階～3階

各階にいる教員が大廊下にあつまり、見回りの教職員と誘導の教職員にわかれて行動することができた。

- ・地震の放送が流れた際に、その場にいた生徒に指示を出すことができ、冷静に行動させることができた。
- ・教頭や主任がいない場合でも、代わりの担当が行動や安全の確認ができた。

2 防災アドバイザーより

- ・階段での移動の際、「おかしもて」の原則から年下の生徒を優先させてしまったため、3階の生徒が降りる際2階で待ち、2階の生徒を優先させてしまった。上の階の生徒が内側を使っており、2階の生徒が外側を使うと一気に降りることができるのでルール化してはどうだろうかという意見をいただいた。
- ・東日本大震災や南越前町の集中豪雨の話では、中学生がボランティアとして活躍した話の途中で、自助、共助、公助が大切であるが、自分の安全を守りながらの行動が大切であるという話をいただいた。
- ・「おかしもて」のルール「て」低学年優先は、小学校の場合に適用されるが、実際に様々な場所で災害が起こったときに年下の子や、高齢者などの弱者を優先することが大切であるという話をいただいた。

3 本校の課題

- ・階段での移動の際のルールを設定をし、今後の避難訓練で身につけさせる。
- ・体験していない場所での行動を教職員が把握できるように、継続して実施し、意識を高め習慣化する。



中庭で放送を聞き中心部に移動する女子生徒



学年ホールを中心に集まる生徒



体育館にいた教員の指示を聞いてしゃがむ生徒



下級生を優先し、自分たちは待機する3年女子生徒



体育館での集合の様子

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	越前市万葉中学校
報告者	丸山和洋

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者(学年・人数)等

実施期日:令和4年11月18日(金)

想定時間:15:15~16:00

参加学年:第三学年 105名

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

- 目的
- ・生命及び身体の安全を常に考えて行動する態度を養う。(生徒)
 - ・地震や原子力災害における教職員と生徒の心構えや、防災意識を高める。(生徒教員)
 - ・迅速かつ正確な保護者や関係機関への連絡と確実な保護者引き渡しを行い、引き渡し時の対応を確認する。(教員・保護者)

内容 ①地震発生後、保護者に一斉メールで迎えの要請を行う。

②生徒を教室に退避させる。(カーテンを閉め、換気扇などを止める)

③生徒は引き渡し場所(体育館)に集合する。

④迎えに来た保護者は、引き渡し場所(体育館)に生徒を迎えに行く。

⑤担任は生徒とともに、保護者であることを確認し、生徒を引き渡す。

II 訓練の成果と課題

1. 成果

- ・教師も生徒と同じ目線で訓練ができた。地震が起きた際には、一緒に机の下にもぐり、机の中から指示を出していた。

2. 課題

- ・原子力災害における、教員の知識や意識が低いため、災害が起きた後に教室の窓やカーテンを閉めたり、換気扇を止めたりすることが出来ていなかった。
→訓練を行う際に教員に対して共通理解を図る必要がある。
- ・様々な災害に応じて、生徒をどのように引き渡すのか対応しなくてはいけないことが確認できた。
→生徒を保護者に引き渡す際のマニュアルの再確認が大切である。車をどのように流すのか、保護者の動きをどのようにさせるのかを明確にし、全職員に共通理解を図らせたい。そのためにも、引き渡し訓練は全学年対象で実施することが望ましいと思った。

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	越前市武生第五中学校
報告者	佐々木 伸行

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

○実施期日 令和4年11月14日（月）

○想定時間 授業中

○参加者 全校生徒 24名

教員 11名

（防災教育の小中連携のための白山小学校教員1名参観）

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

令和4年度 避難訓練（地震）

武生第五中学校

1 日 時 令和4年11月14日（月） 3校時 10:45～11:35
（4校時 自己評価シートでふり返り）

2 想 定 授業中に緊急地震速報が入る。その後、地震が発生する。

3 目 標 【生 徒】

- ・地震時における基本的行動を理解させ、安全に避難できるようにする。
- ・「お・か・し・も・て」の避難を確認し、落ち着いて行動できるようにする。

【教 員】

- ・授業中の緊急時の生徒の誘導・人員把握・点呼等を行う。
- ・職員の緊急時体制と各自の役割を確認する。

4 合図・指示 合図は放送で行う（3校時開始5分後）
地震がおきたときの避難のしかたについての学級指導を行う。（別紙）
※学級指導は11月11日（金）に行う。

ブラインド方式で行う（支援が必要な生徒のみ配慮する）

生徒に「来週中どこかで地震の避難訓練を行う」とだけ告知

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

5 避難場所 グラウンド中央 (雨天時、体育館)

6 当日の流れ

★ 朝

避難訓練実施を公民館・いこい館に連絡 (教頭)

★ 3校時 (通常授業)

1年 社会 2年 国語 3年 数学

★ 5分後 (非常用放送設備の「一斉放送」を使って放送)

①地震警報音が流れる。13秒程度 () …避難経路の確保、生徒と教員は机の下へ

②緊急放送 (停電が起きたと想定し、拡声器で生徒に指示を出す)

『訓練。訓練。地震警報が出ました。大きな地震に備えて、生徒のみなさんは、机の下にかくれて、指示があるまで静かに待ちなさい。』(教頭)

③地震効果音・・・放送()

④地震のゆれがおさまる。(停電が起きたと想定し、拡声器で生徒に指示を出す)

『揺れがおさまりました。生徒の皆さんは先生の指示に従い、次の地震に注意しながら、グラウンドの中央に避難しなさい。(雨天時：体育館)』

⑤級長先頭に担任 (授業担当者) が誘導して避難開始。

基本的には、避難経路図に従って避難する。

★ グラウンド集合後 (雨天時：体育館)

①人員点呼 (集合次第座って待つ)

②安全担当より

③校長先生からのご講評

④多目的ホールへ移動 (内ズックの汚れを落としてから 雑巾の準備：)

⑤学校防災アドバイザー 松井様よりご講評・防災教育

7 避難状況の監督

.....保健室からの避難誘導、健康観察ファイル・AED持ち出し
教頭引き渡しカード持ち出し
.....記録写真
.....計時

避難命令、本部指示 教頭

出席簿持ち出し (健康観察ファイルで代用)、AED持ち出し.....

画像 (打合せ、訓練、講評等) も出来るだけ貼り付けてください。

II 訓練の成果と課題

1. 成果

- ・ブラインド方式で訓練を行ったことで、より実効的な訓練となり、新鮮な気持ちで避難訓練を行うことができた。
- ・松葉杖で移動しなければならない生徒がいたため、そういった災害弱者となる生徒への対応を教員も生徒も考えることができた。
- ・訓練後、すぐに学校防災アドバイザーより防災教育を受けたため、生徒は、自分事として防災教育を聞くことができていた。

2. 課題

- ・停電を想定し、拡声器による避難指示を行ったが、十分に指示が聞こえなかったため、停電時の指示の方法を考える必要がある。
- ・今後、休み時間等にブラインド方式で訓練を行い、教員の役割が決まっていない訓練も実施していく必要がある。

○学校防災アドバイザーによる講評

- ・机の脚の抑え方が徹底されておらず危険なので、机の脚を対角線上に抑えるようにしたほうがよい。
- ・松葉杖の生徒の補助をするのは、教員ではなくて共助の観点より生徒がしたほうがよかったかもしれない。



画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

<u>学校名</u>	<u>武生第六中学校</u>
<u>報告者</u>	<u>安久俊治</u>

I 避難訓練の実施状況

1. (実施期日・時間)・参加者(学年・人数)等

令和4年11月10日(木) 13:05~14:05

(参加者)

1~3年生徒156名

2. 訓練の目的、内容 (※訓練実施計画の添付でも結構です)

別添要項参照

II 訓練の成果と課題

1. 成果

生徒や教職員にとって、初めての原子力災害発生時の対応訓練であり、屋内退避や洗浄の手順の重要性を学習できた。

2. 反省・課題

- ・避難時に生徒たちを焦らせないような声かけ(大きな声はいいが)が必要である。
- ・学校が地域の広域避難所となり、地域の人々が避難してきた場合の対応も考えておく必要がある。
- ・学校の近くに白崎観測所(モニタリングポスト)があり、その数値(μSv)が小さければ慌てる必要がないので、数値を確認することも必要である。

画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	坂井市立平章小学校
報告者	小林 愉美子

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

別紙「避難訓練計画」参照 参加者 全校264名

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

別紙「避難訓練計画」参照

II 訓練の成果と課題

1. 成果

地震発生後、火災発生という想定で行った。

緊急地震速報装置を使つての訓練は、音声、NHK音、地震音ともに臨場感があり、児童は緊張感をもって訓練に臨んでいた。事前に、防災に関する動画「クイズで学ぼう！（地震編）」を視聴し、シェイクアウト方法や、学校や家庭で地震が起きた場合の行動についての学級指導の時間をとつたため、「自分の命は自分で守る」という意識が高まった。当日は冷静にシェイクアウトの避難姿勢をとり、迅速にグラウンドに避難していた。3年生以上の児童は2年前に坂井市春江町を震源とする地震を経験していることもあり、地震に対する意識は高かつたようである。

教員は、緊急地震速報により、地震到達までに避難口の戸を開けるなどの安全確保ができた。また、教員自身もシェイクアウトの姿勢ができた。

避難訓練後、消防署員の指導により1～3年生は煙体験、4年生は水消火器体験を行った。火災時の避難の仕方と初期消火の重要性について学ぶことができた。



2. 課題

今回は、授業中の地震発生想定で、担任の指示のもとに避難を行った。今後は、休み時間や、体育館などの教室以外の場所での避難訓練を検討していきたい。また、避難誘導する教員の動きについても、検証していきたい。

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（講義形式）

学校名	坂井市立平章小学校
報告者	小林 愉美子

I 実施状況

1. 実施期日・参加者（学年・人数）等

10月20日（木）5限目 5学年 34名

2. 実施の目的、内容

5年生は、4年生時に社会科で防災について学んでいる。そのことを生かし、実生活の中での防災意識を高める目的でおこなった。

災害時の安全な避難方法と、災害への備えが主な内容である。

II 成果と課題

1. 成果

講義では、地震が起きた場合の安全な避難方法や避難場所について、クイズ形式で楽しく学ぶことができた。また、地震や水害などの自然災害に備えておくことの重要性と、早めの避難が命を守ることに改めて気付くことができた。



2. 課題

家庭持ち出し用防災グッズや、エレベーターに設置されている防災グッズの紹介など、防災士ならではの視点での話があり、教員にとっても児童にとっても興味深いものであった。防災への意識を高めるためにも継続的な受講を進めていきたい。

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	坂井市立鳴鹿小学校
報告者	市岡 幸恵

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

- ・実施期日 令和4年11月14日（月）
- ・想定時間 13時22分～14時35分
- ・参加者 1～6学年全校児童 82名、職員15名、消防署員3名

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

- ・別添 「訓練実施計画」参照



II 訓練の成果と課題

1. 成果

- ・避難経路に障害物を置き、子どもたちがどのように経路を変えたらよいか考えさせたのはよかった。
- ・命を守る教育は、楽しく真剣にが大事である。煙体験や救助袋体験は、本番のときに冷静に行動するために、必要な経験である。
- ・「訓練は、本番のように真剣に」の鉄則を守って、「お・は・し・も」がよくできていた。

2. 課題

- ・地震発生で、自分の机の下にシェイクアウトしたとき、机が倒れないように、机の脚を前後ろで持つべきである。
- ・教師は、児童の様子を見守ることも必要であるが、自身の身の安全を守る行動を身をもってとるべきである。
- ・上の階から下に下りてきて、下の階の避難とタイミングが同じになったときの判断は、譲り合いで行うのがよい。

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（講義形式）

学校名	坂井市立鳴鹿小学校
報告者	市岡 幸恵

I 実施状況

1. 実施期日・参加者（学年・人数）等

- ・実施期日 令和4年12月2日
- ・参加者 職員12名



2. 実施の目的、内容

- ・目的 避難訓練について振り返り、計画の見直しを行う。
- ・内容 現職教育で職員全体に、訓練の様子について、感想や注意点を教えていただき、今後に向けて検討する。



II 成果と課題

1. 成果

- ・避難訓練の事前打ち合わせにおいて、計画書の改良するとよいところを助言していただき、生かすことができた。（AEDの持ち出し、校内の安全確認報告、「お・か・し・も・て」など）
- ・避難訓練の様子を映像で記録していただき、それをもとに、教師の動きや児童の取り組み方について、よかった点と改善点を教えていただくことができた。
（教師も児童の手本となって身を守る行動を見せる。）
- ・他校の取組について、幾つか紹介をいただき、今後の訓練で取り入れられそうな参考になるお話を聞くことができた。

2. 課題

- ・訓練を行う中で、児童の行動について正した方がよいことは、その場でタイムリーに指示した方がよいこともある。
- ・低学年優先の考え方は必ずしもそうではなく、場合によっては、その場での判断になることもある。
- ・訓練は、時間・場所・状況の設定によって、子どもにも考えて行動することを練習させる場にするとよい。（休み時間、自教室以外の場所、障害物）

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	坂井市立春江小学校
報告者	佐藤 恭二

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

- ・実施期日：令和4年11月8日（火）
- ・想定時間：10時10分地震発生 ※緊急地震速報システムを使つての訓練
10時12分火災発生
- ・参加者：1年115名、2年91名、3年99名、4年86名、5年86名、6年91名、
特別支援学級17名 全校児童585名（22クラス）
教職員 45名

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

地震発生による火災のため全校避難を行う。その際、教職員が、児童を安全に避難誘導するための初期対応や避難方法、注意すべき点を確認するために行う。

※内容の詳細については、資料「避難実施計画」を参照。

II 訓練の成果と課題

1. 成果

今年度2回目の避難訓練である。1回目の訓練は、授業時間の発生・校内放送による避難を実施した。今回2回目の訓練は、休み時間の発生・緊急地震速報システムを使った放送による訓練を行った。初めての休み時間発生の想定であったため、低学年児童については、ある程度担任が把握できる範囲で児童が過ごすようにするなど、戸惑わないように配慮し実施した。全体的に安全に、そしてスムーズに避難行動をとれていたようである。学校防災アドバイザーの指導・助言でも、落ち着いて児童が避難していたことを評価いただいた。

また、危機管理マニュアルについても校閲していただいたが、さまざまな緊急時を想定した項目であり、内容についても細かい部分まで記載されているとの評価をいただいた。

2. 課題

避難についてはスムーズであったが、休み時間の地震発生ということで廊下やトイレにいるときなど待機場所や待機姿勢など戸惑う姿も見られ、発生時の安全確保に課題があがった。学校防災アドバイザーには、考えられる危険や危機を十分想定して、自分の身を守る行動が大切であると助言をいただいた。窓ガラスから離れる、手で頭を覆うなど個人の行動について、いろいろな場所や時間を想定して、今後、指導が必要であると感じた。また、近くに大人がいない場合の避難においても、高学年が低学年と一緒に誘導していくなど助け合いながら避難することの重要性も感じた。

危機管理マニュアルについては、再度、教職員への周知と、それぞれの緊急時を想定し、スムーズに行動できるものかなど、見直しし安全管理を行っていきたい。その際、学校防災アドバイザーから、予想される危機をイメージし、「いつ」「誰が」「何をするのか」を「見える化」して共有できる「学校版タイムライン」を作成し、いざというときに先を見越して具体的なできるように備えておくことが大切であると助言いただいた。

ここ数年、地震だけでなく集中豪雨や洪水、大雪など、自然災害が全国各地で起きている。他人事ではなく、いつでもどこでも起こりうることを常に頭の中におき、自分の命は自分で守る意識を高め、そのためにすべき準備、行動、環境整備など教職員全員が常日頃からの安全教育を進めていきたい。

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	三国南小学校
報告者	水崎 直美

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日 令和4年11月17日(木)、9月28日(水)打ち合わせ
想定時間 9時26分地震発生
参加者 全学年児童 192名、職員 20名
2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）
別添「避難訓練計画」参照

II 訓練の成果と課題

1. 成果

避難訓練の2週間前に「気象庁緊急地震速報訓練」があり、シェイクアウト訓練のみ単独で実施していたこともあり、シェイクアウトの体勢をとることがスムーズに行えた。

今年度緊急地震速報を設置していただいたが、効果音も出るため臨場感があり緊迫した訓練となった。



防災教室では、クイズ形式で防災について学んだ。「地震が起きたとき避難したらよい場所はコンビニかガソリンスタンドか。」「1階と2階、どちらで寝た方が安全か。」など、解答にインパクトがあり、記憶に残る教室となった。家に帰り家族とも話題にした児童も多く、保護者からも防災を考えるきっかけになったとのご意見をいただいた。

た。

2. 課題

年間2回行う避難訓練の実施曜日を変えて行えるとよかった。来年度は曜日や時間を変えて違った想定で避難訓練を実施したい。

講義形式の防災教室はとても有効であった。これら、学んだ知識をもとに今後「考える防災」を進めていきたい。教科と連携させて知識を深めたり、家族との話し合いを意図的に計画して実施したりする活動も行っていきたい。地域で防災教室等も開かれているが、家庭からの参加率は低いようである。内容は充実しているので地域と学校が連携し、防災教室が行える体制がとれるとよいと考えている。来年度は、より効果的・効率的に連携できる方策を練ることが課題である。